

0. はじめに

- (1) 国立情報学研究所 (N I I) の平成 18 年度学術ポータル担当者研修の報告
研修要項：<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/index.html> (2007.2.28 確認)
講義資料／成果物：<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h18/curritxt.html> (2007.2.28 確認)

- (2) この研修報告での前提 (はじめて聴く図書館員を対象に、関係資料の紹介)

1. 「機関リポジトリ」とは

(1) 機関リポジトリ入門

京都大学図書館機構報『静脩』2006年8月 Vol. 43. No. 1 p 3-5

<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/bull/jpn/pdf/431.pdf> (2007.2.28 確認)

(2) 用語の解説

「九州大学学術情報リポジトリ」のホームページの「用語集」より

<https://qir.kyushu-u.ac.jp/info/index.php?%CD%D1%B8%EC%BD%B8> (2007.2.28 確認)

(3) 研修会での講義資料

『機関リポジトリ概論』 村上 祐子 (国立情報学研究所特任助教授)

1. 機関リポジトリの現状
2. 機関リポジトリの定義
 - (1) リンチの定義
 - (2) クロウの定義
3. 学術コンテンツ
4. 学術コンテンツとオープンアクセス
5. コンテンツによる機関リポジトリの特徴づけ
6. 機関リポジトリの直面する課題

+

*参考文献

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h18/txt1.doc> (2007.2.28 確認)

*抜粋資料 機関リポジトリの定義と従来の電子図書館との比較

- ・機関リポジトリの定義
- ・デジタルリポジトリと機関リポジトリ
- ・長崎県内大学「紀要」掲載「長崎関係論文」データベースの位置づけ
- ・国立国会図書館(2002)の電子図書館の特徴とクロウの定義との比較

(4) 機関リポジトリの位置づけ (政策と大学評価との視点から)

① 文部科学省の提言

「学術情報基盤の今後の在り方について (報告)」平成 18 年 3 月 23 日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会

「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」

3. 今後の対応策 3. 2 電子化への積極的な対応 (エ) 機関リポジトリの推進

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/05071402.htm(2007.2.28 確認)

② 平成 18 年度大学基準協会における大学評価の点検・評価項目

各分科会が評価する点検・評価項目、大学基礎データ項目

6 研究活動と研究環境

- (2) 研究環境 (研究上の成果の公表、発信・受信等)

C 群 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

<http://www.juaa.or.jp/2005jitumu/jitumusetumeikai/siryuu4.xls> (2007.2.28 確認)

(5) 機関レポジトリの関係サイト・資料

- ① 国立情報学研究所：次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 機関レポジトリ
<http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html> (2007.2.28 確認)
機関レポジトリ一覧、平成 17・18 年度委託事業、関連資料、関連サイト
- ② Open Access Japan オープンアクセスジャパン
<http://www.openaccessjapan.com/> (2007.2.28 確認)
 - ・オープンアクセス機関レポジトリ関連年表
 - ・日本における機関レポジトリ
 - ・オープンアクセス・機関レポジトリ関連の日本語文献
- ③ 国立国会図書館電子図書館プロジェクト
<http://www.ndl.go.jp/aboutus/elib-project.html> (2007.2.28 確認)
- ⑤ 雑誌の特集論文
「情報の科学と技術」抄録 Vol. 55 (2005), No.10 特集＝「学術情報レポジトリ」

2. ポータル担当者研修で学んだ著作権処理方法

(1) 研修会での講義資料

『機関レポジトリと著作権』 杉田茂樹・堀越邦恵 (北海道大学附属図書館)

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h18/txt9.ppt> (2007.2.28 確認)

- *問題の在処
- *論文投稿と著作権譲渡
- *海外出版社・学会の対著者方針
- *国内出版社・学会の対著者方針
- *刊行元方針の見つけ方
- *公開許諾条件の例
- *事例研究

(2) 『学術機関レポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト報告書』

第3章「著作権処理」(国立情報学研究所 平成 17 年 3 月)

<http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/NII-IRPreport.pdf> (2007.2.28 確認)

(3) 国立大学図書館協会 学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクト

機関レポジトリ サポートページ <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/ir/> (2007.2.28 確認)

「著作権の取扱いに関するアンケート」の概要

(4) 機関レポジトリに対する論文掲載許諾状況を調べらWE B

① SCPJ 学協会著作権ポリシーデータベース (Society Copyright Policies in Japan)

日本国内の学協会の機関レポジトリに対する論文掲載許諾状況を調査するページ

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/> (2007.2.28 確認)

② SHERPA/RoMEO - Publisher copyright policies & self-archiving

英国 SHERPA Project が運営する洋の出版社の著作権ポリシーを集めているサイト。

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php> (2007.2.28 確認)

(5) その他

① セルフ・アーカイビング FAQ

(サウサンプトン大学作成、翻訳は国立情報学研究所)

<http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/safaq/> (2007.2.28 確認)

② 著者の権利 (国立大学図書館協会) : SPARC "Author's rights" 日本語訳

[http://www.soc.nii.ac.jp/anul/j/projects/isc/sparc/author rights/SPARC Author Addendum.html](http://www.soc.nii.ac.jp/anul/j/projects/isc/sparc/author%20rights/SPARC%20Author%20Addendum.html)(
2007.2.28 確認)